1999-5

産業技術短期大学　　第52回・管理者セミナー　　1999.2.25
人材開発センター　　於：NKK経営研修所

日本の明日を考える

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※　橋爪大三郎（東工大）

□0□　講師自己紹介

はしづめ　だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。1989年より東京工業大学助教授（社会学）。1996年4月より、大学院社会理工学研究科価値システム専攻教授。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『橋爪大三郎コレクション（全３巻）』（以上、勁草書房）、『はじめての構造主義』『社会がわかる本』（以上、講談社）、『崔健』『性愛論』（以上、岩波書店）、『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）、『自分を活かす思想／社会を生きる思想』（共著、径書房）、『小室直樹の学問と思想』（共著、弓立社）、『大問題！』（幻冬舎）、『橋爪大三郎の社会学講義』『橋爪大三郎の社会学講義２』（夏目書房）、『科学技術は地球を救えるか』『研究開国』（共著、富士通経営研修所）、『近代国家とオウム』（共著、南風社）、『新生日本』（共著、学習研究社）、『正義・戦争・国家論』（共著、径書房）、『選択・責任・連帯の教育改革』（共著・岩波ブックレット）、『こんなに困った北朝鮮』（ﾒﾀﾛｰｸﾞ・近刊）ほか

□1□　曲がり角の日本

１）90年代の日本は、思考停止（＝意思決定の不能状態）に陥っている
- 政治の思考停止　　ポスト自民時代の混迷・迷走　　政策理念の欠如
- 経済の思考停止　　企業目的の喪失　　タイタニック状態　　企業共同体の崩壊
- 家庭の思考停止　　熟年離婚　　家庭内離婚　　親子の断絶（過干渉／無関心）
- 学校の思考停止　　学級崩壊　いじめの日常化　学力低下　大学の荒廃

２）企業社会の行き詰まりは、戦前日本（軍主導社会）の行き詰まりと同じである
- 参謀本部（1878～　）：作戦を計画し命令を発する最高機関　　軍政／軍令
- 西欧の参謀～司令官の意思決定を補佐するスタッフ（組織）
  絶対王制～傭兵隊～補給が生命線～戦場を設定し軍事物資を届ける～兵站～参謀
- 日本は、武士（自己補給）→近代軍になったため、補給（参謀）の考え方がない
- 統帥権の独立　統帥権（軍事指揮権）は天皇に（実質は参謀総長に）　内閣は不関与
- 陸海軍大臣現役制→内閣に対する不信任権→軍は「国家のなかの国家」に　⇨謀略
- 軍紀違反の続出　張作霖爆殺事件（河本大佐）、満州事件（石原参謀）、朝鮮軍越境（林銑十郎大将）、蘆溝橋事件（北支那派遣軍）、南京事件（第十軍）、ノモンハン
  ⇨指導部は現状追認⇨戦争目的の喪失（×政略→戦略→戦術→戦闘）⇨日本社会解体

□2□　２１世紀はどういう時代か

１）地球は狭く、苦しくなる（資源／情報ギャップの拡大）
- 情報価格↓×エネルギー価格↑×食糧価格↑：世界のことはよく分かるが問題山積

２）環境破壊の深刻化
- 炭素税 and/or 資源消費権の証券化と、国際紛争　　植物蛋白運動～日本が主役？

３）広がる南北格差
- 所得向上&教育→人口増ストップ　∴発展途上国のすみやかな経済発展をはかるべき
- 食糧価格の高騰→穀物の適正分配（配給）に関する国際協定　　財源は国際消費税？

４）先端科学技術と社会変動
- 生命科学の進展（老化の科学的解明）→先進国における長命現象　南北格差の拡大
- 情報科学の進展（音声即時自動翻訳）→英語優位の終焉？　　・物質科学の進展

５）アメリカの相対的地位低下　　21世紀初頭の経済順位：中国[1] ｱﾒﾘｶ[2] インド[3] 日本[4]
- 中国（をはじめとする非欧米世界）の台頭　　国際社会のルールをめぐる争い

６）新たな安全保障体制へ
- 戦略防衛から、戦域防衛（ＴＭＤ）へ　　→日米ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝの再改訂・防衛戦略の転換
- 核拡散（印パ抗争）、毒ガステロ（スーダン、アフガン）、ミサイル（北朝鮮）

□3□　２１世紀、日本は復活できるか

１）日本の２１世紀戦略　　～文化の創造的価値を重視
- 「科学技術創造立国」路線　　独創性&言語バリアの突破&高品質&低価格&実用性
- 国際分業のなかに活路を見出す　　日本市場→世界市場　　企業行動の世界標準化
- 「人民」のための政府・制度・社会の建設を！　　無党派の時代

２）政治の改革　　～意思決定力の強化
- 国会の機能強化　　次点歳費制（議員を半分に）　調査・立法機能の充実
- 中央省庁の再編・簡素化・規制緩和　　・地方分権　　地方政府の自立

３）企業社会の改革　　～経済体質の強化
- 戦後社会は、資本主義でなかった！　　配当が低い≒株主不在／累進課税／資産課税
  ⇨持株会社の復活　　ベンチャー企業育成（自由競争、直接金融）
- 入り口文化、年次別管理からの脱却　　インターンシップ／年俸制／自由移動

４）教育の改革　　～新しいタイプの日本人形成を
-
-

５）東アジア国家としての再出発
- 戦後自虐史観vs自由主義史観論争の決着　　→靖国神社問題の最終的解決
- アジア諸国共存のための国際秩序を　　アメリカのプレゼンスを重視しよう

参考

社会経済生産性本部・社会政策特別委員会
中間報告「選択・責任・連帯の教育改革――学校の機能回復をめざして」98年７月

上記の全文は、http://www.valdes.titech.ac.jp/～hashizm/でみることができます。

S-6661

○課題

1）日本の教育（幼稚園&保育園・小中学校・高校・大学・大学院教育、学校外教育、家庭教育、生涯教育などを含む）について、

a）現状のままでは困るという問題点をひとつ、具体的にのべ、
b）それを解決するにはどうしたらよいか、具体的なプランを示し、
c）そのプランに、誰がどういう理由で反対しそうか、予想をのべ、
d）それとどう立ち向かい、または説得して、プランを実現できるかのべて下さい。

2）以上の課題をおえたら、隣りの人の答案と交換して、要点を書き写してください。

3）互いの答案について、討論して下さい。

4）討論の結果を、簡単にまとめて下さい。

解答用紙　　　　氏名

1）a）

b）

c）

d）

2）隣りの人の解答
（　　　　　）さん

4）討論の結果

清華大学 1999.3.1

社会理工学及
東京工業大学社会理工学的建立

橋爪大三郎
（日本・東京工業大学）

□1□ 日本戦后大学改革与東工大「楔型方式」

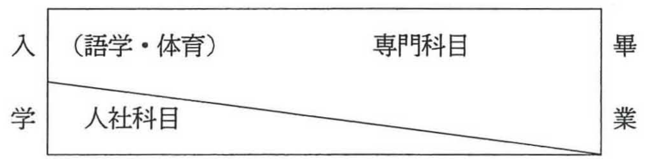
1）戦後日本的教養学部構想

戦前 6・5・3・3制 ⇨ 戦後 6・3・3・4制

戦前		戦後	
小学	6年	小学	6年
（旧制）中学	5年	（新制）中学	3年
（旧制）高校	3年	（新制）高校	3年
（旧制）大学	3年	（新制）大学	4年 ― 教養 1～2年／専門 2～3年

例）第一高等学校（東京・駒場） ⇨ 東京大学教養学部（2年） 学力
東京帝国大学（東京・本郷） 専門学部（2年） 下降！
在教養学部選択必修人文科学・社会科学・自然科学各12単位、計36単位

2）東工大・和田小六教授認為、自然科学者也応該需要広汎人文社会科学素養、設計将人文社会一般教育混在理工系基礎・専門教育一起、如下（楔型方式）：



這方式比較成功、是最近日本大学教程改革（大綱化）的一个来源。

□2□ 東京工業大学戦後機構改革簡歴

1）理工学部
- 総合理工学研究科（大学院大学）
- 生命理工学部 ― 生命理工学研究科
- 社会理工学研究科
- 情報理工学研究科

経営工学科（ca1960年～ ） 社会工学科（ca1970年～ ）

2）大学院重点化 移転所有教員従学部到大学院研究科
・教員増 学部：1講座＝教授1＋助教授1＋助手2 ・予算増
大学院：1講座＝教授2＋助教授2＋助手1

3）6研究科構想 理学／工学／総合理工学／生命理工学／情報理工学／社会理工学
大約2002年完成

□3□ 社会理工学研究科（Graduate School of Decision Science and Technology）

1）4専攻：経営系統工学 Dept. of Industrial Engineering and Management
社会工学 Dept. of Social Engineering
人間行為系統 Dept. of Human System Science
価値系統 Dept. of Value and Decision Science

2）工学部
- 人文4群（一般教育）
  - 人文社会群 → 価値系統専攻 ┐ 社会理工学研究科
  - 体育群・教育群 → 人間行為系統専攻 ┘（1996.4～ ）
  - 外国語群 → 外国語研究教育中心（独立学内機関）

社会理工学研究科成為対理工系単科大学機構改革的一個模型

□4□ 価値系統専攻（VALDES:Dept. of Value and Decision Science）

1）意思決定（Decision Making） ＝哲学（価値前提）×数学（因果推論） ⇨ 行為
価値意識由于日常言語被表現 因果推論由于計測解析被実行
everyday language mesurement and analysis

2）講座編成
- 価値論理講座 Value System Theory chair
- 社会数理講座 Socio-mathematical Theory chair
- 決定過程論講座 Decision Making Process chair

3）教程編成
講究 Seminor ＞ 討議実験 Discussion Program ＜ 論文指導
特別演習 ／ 他専攻科目
Training course of Philosophy,
Mathematics and Computer

陪養新類型領導、能同時理解価値哲学与理工学数理、可以処理高級決策

□5□ 日本大学改革的新趨勢

1）大学院重点化的急進展 1990年→2000年：大学院定員増加2～3倍
大綱化（単位弾力化） 一般教育・教養学部的改組再編
→哲学・歴史・文学・法律等々古典学科目減少 総合性的交叉学科目増加

2）研究予算重点分配 COE（center of excellence）
大学審議会答申「競争性環境中発揮個性的大学」 →没有突出個性、没有前途

3）国立大学「独立行政法人 agency 」化
国立大学是国家機関的一部分、没有法的人格、不能所有知的財産権（特許等）
→為了推進大学和企業的合作、各個国立大学改為独立組織「行政法人」、独立採算

4）博士后一万人計画
文部省科学研究費等研究資金不象美国元来不能用于雇傭研究人員
→日本学術振興会特別研究員増員 根本性改革没開始

□6□ 根本性改革

1）学生定員廃止→大学自由競争 撤廃大学設置基準 単位互換制 学生自由移動
入学試験廃止 完備奨学金（銀行借款） 拾学費

2）研究費分配多元化 事前審査→事後審査 研究費使途自由化（雇傭研究員）

3）促進教員流動性 年俸制 任期制 公募（競争人事） 外国人教員採用

参考文献

堤 清二・橋爪大三郎 1999『選択・責任・連帯的教育改革』岩波書店
社会経済生産性本部 1999『選択・責任・連帯的教育改革・最終報告』（7月刊）
東京工業大学 1993『東京工業大学的改革構想』

清華大学　　　　　　　　「選択・責任・連帯の教育改革」　　　　　1999.3.2
最終報告書・骨子（案）　　　　　　橋爪大三郎

序　　教育問題の背景と基本認識

第Ⅰ部　２１世紀社会の教育を育む哲学・価値の創造

1．教育改革の基本姿勢
2．教育の育む哲学
　2－1　学校の哲学を踏まえて
　2－2　教育の哲学をもとめて
　2－3　価値の教育をめぐって
3．教育の課題
　3－1　時代認識：世界化する２１世紀社会への展望
　　1．世界の状況
　　　a．資本主義の高度化・普遍化と国民国家の相対化
　　　b．非西欧型世界と異質な価値体系の競合／共存
　　　c．世界システムの共通問題：環境問題／中心と周辺
　　2．日本の問題
　　　a．ポスト工業化社会
　　　b．消費社会／情報化／超都市化
　　　c．少子化・高齢化／性・世代概念の変容
　　　d．国際社会との交流・適応
　3－2　教育の目標：２１世紀社会における教育の目標
　　1．「社会性」の形成
　　2．「知／技能」の形成
　　3．「表現力」の形成
　3－3　教育の条件
　　1．「可能性」を見つけること
　　2．「ニーズ」を充たすこと
　　3．「学校」を開くこと
　　4．「個人」の尊厳

第Ⅱ部　学校の機能回復をめざした改革

1．改革の基本的な考え方
2．小・中学校の改革
　2－1　学区制の廃止
　　入学者決定の手続き／不人気校への対策
　2－2　学校経営権を校長に
　　学校理事会（校長の選任と学校の評価）の詳細
　　教員の異動の自由（採用システム）／過疎地や辺地校の校長・教員の選任
　　校長の人材発掘と公募のシステム
　2－3　クラス編成を自由に
　2－4　授業の改革
　2－5　不必要な会議・研究授業・事務書類を廃止する
　2－6　義務教育の見直し
3．高等学校の改革
　3－1　高校の経営権を校長に
　3－2　高校入学は原則として無試験に
　3－3　高等学校学力検定試験（高検）の導入と、カリキュラムの多様化
4．大学の改革
　4－1　学生定員を廃止して、入試をなくそう
　　入学者の決定方式／混雑現象への対応／キックアウト後の処理
　4－2　学費制度と奨学金の改革を
　4－3　大学と就職との接続
　　企業の採用行動／大学の入学・卒業時期
　4－4　大学の流動性、機動性を高めよう
　4－5　研究費を構成な競争に基づいて柔軟に配分しよう
　4－6　国立大学の整理統合と、大学設置の自由化を
5．教育行政の役割と施策
　5－1　文部省の役割
　5－2　中央教育審議会などの方針について
　5－3　教育委員会の整理縮小

第Ⅲ部　学校と家庭教育――選択と責任の主体としての家庭――

1．家庭教育を考える基本的視点
　学校教育の改革との関連／家庭は子どもの教育に関する最終的な責任主体
2．家庭教育の現状
　過剰な関与と無責任の両義性
3．学校教育への家庭の選択と責任
　3－1　学校の選択
　3－2　親の教育義務
　3－3　学校経営と教育内容に家庭が最終責任を
4．学校の説明義務と家庭の主体的選択
　学校による「インフォームド・コンセント」の徹底を前提とした、家庭と本人の主体的な選択
5．親は学校教育に積極的に参加しよう
　5－1　学校教育への家庭のボランティア的参加
　5－2　学校を共同性の触媒に
　5－3　学校外教育の充実
6．就学前準備教育（幼児期の教育）の重要性

（参考資料）大学奨学金の試算例

清華大学　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　1999.3.3

日本構造危機与日本社会

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※　　　　橋爪大三郎（東工大）

□0□　講師自己紹介

はしづめ　だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。1989年より東京工業大学助教授（社会学）。1996年4月より、大学院社会理工学研究科価値システム専攻教授。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『橋爪大三郎コレクション（全３巻）』（以上、勁草書房）、『はじめての構造主義』『社会がわかる本』（以上、講談社）、『崔健』『性愛論』（以上、岩波書店）、『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）、『自分を活かす思想／社会を生きる思想』（共著、径書房）、『小室直樹の学問と思想』（共著、弓立社）、『大問題！』（幻冬舎）、『橋爪大三郎の社会学講義』『橋爪大三郎の社会学講義２』（夏目書房）、『科学技術は地球を救えるか』『研究開国』（共著、富士通経営研修所）、『近代国家とオウム』（共著、南風社）、『新生日本』（共著、学習研究社）、『正義・戦争・国家論』（共著、径書房）、『選択・責任・連帯の教育改革』（共著・岩波ブックレット）、『こんなに困った北朝鮮』（ﾒﾀﾛｰｸﾞ・近刊）ほか

□1□　曲がり角の日本

１）90年代の日本は、思考停止（＝意思決定の不能状態）に陥っている
- 政治の思考停止　　ポスト自民時代の混迷・迷走　　政策理念の欠如
- 経済の思考停止　　企業目的の喪失　　タイタニック状態　　企業共同体の崩壊
- 家庭の思考停止　　熟年離婚　　家庭内離婚　　親子の断絶（過干渉／無関心）
- 学校の思考停止　　学級崩壊　いじめの日常化　学力低下　大学の荒廃

２）企業社会の行き詰まりは、戦前日本（軍主導社会）の行き詰まりと同じである
- 参謀本部（1878〜　）：作戦を計画し命令を発する最高機関　　軍政／軍令
- 西欧の参謀〜司令官の意思決定を補佐するスタッフ（組織）
  絶対王制〜傭兵隊〜補給が生命線〜戦場を設定し軍事物資を届ける〜兵站〜参謀
- 日本は、武士（自己補給）→近代軍になったため、補給（参謀）の考え方がない
- 統帥権の独立　統帥権（軍事指揮権）は天皇に（実質は参謀総長に）　内閣は不関与
- 陸海軍大臣現役制→内閣に対する不信任権→軍は「国家のなかの国家」に　⇨謀略
- 軍紀違反の続出　張作霖爆殺事件（河本大佐）、満州事件（石原参謀）、朝鮮軍越境（林銑十郎大将）、蘆溝橋事件（北支那派遣軍）、南京事件（第十軍）、ノモンハン
  ⇨指導部は現状追認⇨戦争目的の喪失（×政略→戦略→戦術→戦闘）⇨日本社会解体

□2□　２１世紀はどういう時代か

１）地球は狭く、苦しくなる（資源／情報ギャップの拡大）
- 情報価格↓×エネルギー価格↑×食糧価格↑：世界のことはよく分かるが問題山積

２）環境破壊の深刻化
- 炭素税 and/or 資源消費権の証券化と、国際紛争　　植物蛋白運動〜日本が主役？

３）広がる南北格差
- 所得向上&教育→人口増ストップ　∴発展途上国のすみやかな経済発展をはかるべき
- 食糧価格の高騰→穀物の適正分配（配給）に関する国際協定　　財源は国際消費税？

４）先端科学技術と社会変動
- 生命科学の進展（老化の科学的解明）→先進国における長命現象　南北格差の拡大
- 情報科学の進展（音声即時自動翻訳）→英語優位の終焉？　　・物質科学の進展

５）アメリカの相対的地位低下　　21世紀初頭の経済順位：中国[1] ｱﾒﾘｶ[2] インド[3] 日本[4]
- 中国（をはじめとする非欧米世界）の台頭　　国際社会のルールをめぐる争い

６）新たな安全保障体制へ
- 戦略防衛から、戦域防衛（TMD）へ　　→日米ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝの再改訂・防衛戦略の転換
- 核拡散（印パ抗争）、毒ガステロ（スーダン、アフガン）、ミサイル（北朝鮮）

□3□　２１世紀、日本は復活できるか

１）日本の２１世紀戦略　　〜文化の創造的価値を重視
- 「科学技術創造立国」路線　　独創性&言語バリアの突破&高品質&低価格&実用性
- 国際分業のなかに活路を見出す　　日本市場→世界市場　　企業行動の世界標準化
- 「人民」のための政府・制度・社会の建設を！　　無党派の時代

２）政治の改革　　〜意思決定力の強化
- 国会の機能強化　　次点歳費制（議員を半分に）　調査・立法機能の充実
- 中央省庁の再編・簡素化・規制緩和　　　・地方分権　　地方政府の自立

３）企業社会の改革　　〜経済体質の強化
- 戦後社会は、資本主義でなかった！　　配当が低い≒株主不在／累進課税／資産課税
  ⇨持株会社の復活　　ベンチャー企業育成（自由競争、直接金融）
- 入り口文化、年次別管理からの脱却　　インターンシップ／年俸制／自由移動

４）教育の改革　　〜新しいタイプの日本人形成を
-
-

５）東アジア国家としての再出発
- 戦後自虐史観vs自由主義史観論争の決着　　→靖国神社問題の最終的解決
- アジア諸国共存のための国際秩序を　　アメリカのプレゼンスを重視しよう

参考

社会経済生産性本部・社会政策特別委員会
　中間報告「選択・責任・連帯の教育改革――学校の機能回復をめざして」98年７月

上記の全文は、http://www.valdes.titech.ac.jp/ ~ hashizm/でみることができます。

第１１０回行政　　問題解決技法（講義・演習）　　人事院公務員研修所
研修（係長級）　　**意思決定とは何か**　　1999.3.16

橋爪大三郎（東工大）

□0□　講師自己紹介

はしづめ　だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。1989年より東京工業大学助教授（社会学）。1996年４月より、大学院社会理工学研究科価値システム専攻教授。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『橋爪大三郎コレクション（全３巻）』（以上、勁草書房）、『はじめての構造主義』（以上、講談社）、『崔健』『性愛論』（以上、岩波書店）、『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）、『自分を活かす思想／社会を生きる思想』（共著、径書房）、『小室直樹の学問と思想』（共著、弓立社）、『橋爪大三郎の社会学講義』『橋爪大三郎の社会学講義２』（夏目書房）、『冒険としての社会科学』（毎日新聞社）、『正義・戦争・国家論』（共著、径書房）、『研究開国』『科学技術は地球を救えるか』（共著、富士通経営研修所）、『選択・責任・連帯の教育改革』（共著・岩波ブックレット）、『ポスト戦後の正統論』（勁草書房・近刊）ほか

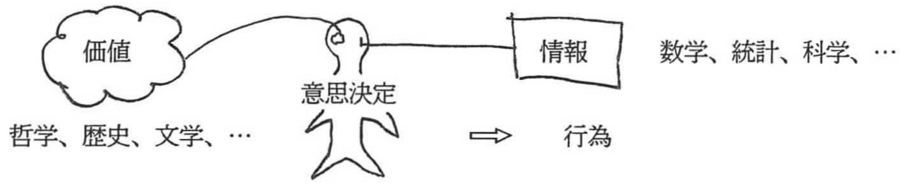
□1□　意思決定とは何か

１）意思決定（decision making）……人間も組織も、つねに意思決定を行なっている

・→情報収集→意思決定→行動→世界（相手）の変化→（循環）　　価値：所与（しかし潜在的）
　　意思決定＝ｆ（価値，事実認識）

・意思決定は、行動選択肢のなかからの選択である

・選択を行なうためには、行動選択肢についての評価（価値判断）が必要である



２）「社会理工学」の誕生　Graduate School of Decision Science and Technology

・意思決定の技術＝哲学（価値システムについての理解）×数学（因果分析の技法）
　価値システム専攻（VALDES:Dept.of Value and Decision Science）

・ネオ・リーダーの養成　　意思決定の当事者を訓練する
　日常言語の能力　→合意形成（事前に）　→説明責任（事後に）

□2□　日本の官僚機構はなぜ、市民の言うことがきけないのか

１）戦前日本（軍主導社会）は、どのように行き詰まったか

・参謀本部（1878〜　）：作戦を計画し命令を発する最高機関　　軍政／軍令

・西欧の参謀〜司令官の意思決定を補佐するスタッフ（組織）
　絶対王制〜傭兵隊〜補給が生命線〜戦場を設定し軍事物資を届ける〜兵站〜参謀

・日本は、武士（自己補給）→近代軍になったため、補給（参謀）の考え方がない

・統帥権の独立　統帥権（軍事指揮権）は天皇に（実質は参謀総長に）　内閣は不関与

・陸海軍大臣現役制→内閣に対する不信任権→軍は「国家のなかの国家」に　⇨謀略

・軍紀違反の続出　張作霖爆殺事件（河本大佐）、満州事件（石原参謀）、朝鮮軍越境（林銑十郎大将）、蘆溝橋事件（北支那派遣軍）、南京事件（第十軍）、ノモンハン
　⇨指導部は現状追認⇨戦争目的の喪失（×政略→戦略→戦術→戦闘）⇨日本社会解体

○参考図書　渡辺昇一　198?『ドイツ参謀本部』？
　大江志乃夫 1985『日本の参謀本部』中公新書
　猪瀬直樹　1983『昭和16年の敗戦』世界文化社　→ 1986 文春文庫

２）戦後日本（官主導社会）は、どのように行き詰まったか

・革新官僚による戦時統制経済　→戦後復興経済　→ｹｲﾝｽﾞ型成長経済　→護送船団方式

・戦後民主主義の機能不全　国会（立法機能）の無力　司法の無力　→官僚優位

・教育の画一化　・地方自治の弱体　・言論思想の弱体　・ＮＧＯの弱体

・「法の支配」の考え方がない　法〜人民を守るもの　cfアジアでは法＝権力者の命令

○参考図書　ジョン・Ｇ・ロバーツ 197?『三井』ダイヤモンド社
　Ｋ・ヴァン・ウォルフレン『日本／権力構造の謎（上）(下)』中公文庫

□3□　意思決定の実習

１）組織における意思決定

・指揮官（意思決定の責任者）＋スタッフ（意思決定を支援する専門家）＋ライン
　意思決定の前提である価値を明確に　　判断の根拠を明確に evidence based

・行政機構（官僚組織）は、反復されるルーティン・ワークに向いている　〜保守的
　新しい課題への対応・自己革新に、官僚組織は不向き　→政治の課題

２）危機管理

・通常の手続きを短縮・省略して意思決定を行なう　危機をパターン化・マニュアル化

・緊急（最悪）の事態に対して、最善の行動をとる　最善かどうか〜平時の基準
　手続き的な合法性のため、事前立法が望ましい　cf軍：国内法に縛られず

３）意思決定実習　〜わが国に、まだ確立した方法なし

・効果その１）人材育成　　特定の状況下で意思決定を経験し、能力を向上させる
　効果その２）人材選抜　　同一の状況下での意思決定を観察し、適任者を選ぶ
　効果その３）政策研究　　問題の状況下で意思決定を予行し、政策を立案する

・【実習】　ca.11:00〜12:30　ある状況下でとるべき手段を立案
　1:30〜2:30　各班の結果を相互に配布。事後評価の準備。
　2:30〜3:30　各班が互いに、事後評価
　3:40〜4:30　以上の発表と、質疑・討論

・今回の実習を参考に、改善すべき点や提案があれば、ぜひ意見をお寄せ下さい。
E-mail　hashizm@valdes.titech.ac.jp
http://www.valdes.titech.ac.jp/

☆東工大社会理工・価値システム専攻では、社会人を博士課程に受け入れています。
社会実務３年以上で、修士相当と認定／月１回のＤＰと随時のゼミのみ（在職で可）

問題解決技法99　　1999. 3. 16

状況）２００×年４月のある月曜日の午前１１時ごろ、東京の都心でなにものかが毒ガスを大量に散布したことが原因と思われる、大きな被害が発生した。
千代田区、港区一帯に被害が拡がり、特に霞が関１丁目、２丁目、３丁目、永田町１丁目、２丁目は壊滅的な被害に見まわれているらしい。折から国会が開会中であったが、生存者はいない模様である。

課題）さて、みなさん９？人の一行は、たまたま新首都の予定地にいた。そして、瀕死の官房長官から携帯電話で連絡を受け、急いで必要な措置をとるよう依頼された。官房長官とはその後すぐ、連絡が取れなくなった。
そこで、
１）みなさんのなかから、リーダーを一人決めて下さい。（どうやって決めてもかまいません。）
２）今後どういう措置をとればいいか、おのおのの役割分担を決め、考えられる限りのことをどしどし意思決定して下さい。

注意）・いつ、どのような意思決定をしたか、記録しておいて下さい。
・状況の細部について具体的な想定が必要な場合は、適当に設定して下さい。どういう設定をしたか、明示しておいて下さい。

後半のスケジュール

１：３０～２：３０　事後評価の準備　自分たちが事後評価する班の、立案の結果のコピーを入手し、検討。
どう事後評価するか、されるか、打ち合わせる。

２：３０～３：００　事後評価　1←2　3←4　5←6　7←8
（意思決定当事者←国民代表）

３：００～３：３０　事後評価　8←1　2←3　4←5　6←7
（意思決定当事者←国民代表）

事後評価の基準は、意思決定が迅速かつ適切であったか、法律上の根拠、予算の裏付け、国民の理解、…など無数にありうると思います。評価する側の班は、国民の代表となって、担当者をチェックして下さい。

３：４０～４：３０　事後評価の発表、質疑・討論

記録シート　（　　　　）班　No.　／

時　刻	意思決定の内容　　　　／追加の想定

VALDES・DP入門プログラム　　1999.4.15
担当：橋爪

スピーチ基礎 (Speech Skill)

メニュー

□1　スピーチ（発言）とは何か
- 発言（しっかり話す）／聴取（だまって聞く）

sence of meeting　討論は、発言⇄聴取の交替〜結論にいたる共同作業

参考）大木英夫 1968 『ピューリタン』中公新書 160　〜 new model army

- 発言権は絶対に平等／ばかな質問をする権利はない／議論の生産性に配慮
- ブレイン・ストーミング　〜相手の発言を否定するようなことは言わない

□2　スピーチの準備

1）身体訓練	柔軟体操	首・肩・胸の筋肉のほぐし方
	ストップ・モーション	重心、緊張／脱力を意識する
2）発声訓練	腹式呼吸法	
	発声法	胸腔、鼻腔で共鳴　有声音／無声音
	滑舌法	口・唇・舌の運動
	日本語アクセント法則	〜『新明解国語辞典』三省堂
	イントネーション	
3）身体技法	姿勢	不必要に動かない
	視線	発言者を見る（まっすぐ）／聴衆を見る
	ボディ・ランゲージ	癖をなおす

□3　スピーチ・ライティング

1）トピック・センテンス　〜木下是雄 1981 『理科系の作文技術』中公新書 624

2）平明体（聞いてわかる）　逆接は最小限に　留保はしない

3）時間をキープ　短いほどよい　ぴったりに終わる技術

□4　スピーチ実習

1）原稿を用意する

2）原稿を見ないで話す　絶対に「読みあげ」てはだめ

3）実習

（資料その１）

2－2　発声訓練　●滑舌法　あ　え　い　う　え　お　あ　お

か ・　　鼻濁音

さ／た／な／は／ま／や／ら／わ　が／が／ざ／だ／ば

あ　い　う　え　お　あいうえお　い　う　え　お　あ　いうえおあ　う　……

らだれでろど　らだれでろど　（繰り返し）　ばぼびんぶぶべべ　……

お綾や、母親にお謝り。お綾や、八百屋におあまりとお言い。

菊栗、菊栗、三菊栗。あわせて菊栗、六菊栗。　〜歌舞伎『外郎売』

麦ごみ、麦ごみ、三麦ごみ。あわせて麦ごみ、六麦ごみ。

武具馬具、武具馬具、三武具馬具。あわせて武具馬具、六武具馬具。

かえるぴょこぴょこ、三ぴょこぴょこ。あわせてぴょこぴょこ六ぴょこぴょこ。

どじょうにょろにょろ、三にょろにょろ。あわせてにょろにょろ六にょろにょろ。

……

＊東京・標準語では、語尾の母音が発音されない　です desu → des

また、語頭にない「が」が、鼻濁音となる　がっこう　おんがく　主格の「が」

●日本語アクセント法則　（東京・標準語）

1）各音節は、高／低、二つの音高をもつ

2）２音節以上の語は、第１〜第２音節で高低が交替

3）語によって、アクセントの型は決まっている

4）各語のなかで、高部は多くても一箇所

5）合成語は、中高のアクセントに変わる

お　やこ　＋　ど　んぶり　→　お　やこど　んぶり

●イントネーション　イントネーションには、はっきりした法則がない

基本は、ダウン・イントネーション（だんだん下降）

強調される語で、イントネーションが上昇する　→　意識的に使いこなすべき

私は、東京工業大学　大学院　社会理工学研究科　価値システム専攻　修士課程の学生です。

広島商工会議所講演会　於：商工会議所1F-101

現代の若者意識を探る

～日本の経済危機と教育について～

1999.4.20

橋爪大三郎（東京工業大）

□0□　講師自己紹介　　http://www.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/

はしづめ　だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。1989年より東京工業大学助教授（社会学）。1996年4月より、大学院社会理工学研究科価値システム専攻教授。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『橋爪大三郎コレクション（全３巻）』（以上、勁草書房）、『はじめての構造主義』『社会がわかる本』（以上、講談社）、『崔健』『性愛論』（以上、岩波書店）、『冒険としての社会科学』（毎日新聞社）、『自分を活かす思想／社会を生きる思想』（共著、径書房）、『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）、『小室直樹の学問と思想』（共著、弓立社）、『大問題！』（幻冬舎）、『橋爪大三郎の社会学講義』『橋爪大三郎の社会学講義２』（夏目書房）、『科学技術は地球を救えるか』『研究開国』（共著、富士通経営研修所）、『オウムと近代国家』（共著、南風社）、『新生日本』（共著、学習研究社）、『正義・戦争・国家論』（共著、径書房）、『選択・責任・連帯の教育改革』（共著・岩波ﾌﾞｯｸﾚｯﾄ）、『ポスト戦後の正統論』（勁草書房・近刊）、『こんなに困った北朝鮮』（メタローグ・近刊）

□1□　戦後日本の、若者はどう変わってきたか

１）若者は、アンチテーゼ（前の世代に対する断絶の強調）によって、自己主張する
- アプレ・ゲール　～民主主義・マルクス主義・戦後的価値観の称揚
- 全学連世代（太陽族→みゆき族→原宿族）　～正統（共産党）マルクス主義に反対
- 全共闘世代（団塊の世代）　～戦後の体制的なるものに対する懐疑
- しらけ世代（紛無世代）　～公共的なものから私的なものへの撤退
- 新人類　～消費・情報・ハイテク・ブランドの輝き・限界差異の追求
- ファミコン世代（団塊ジュニア）　～ヴァーチャル感覚・ＰＢ・メイル・携帯電話

２）現代の若者意識が、過去と違っている点
- 「子どもが親を越えられない」現象（特に男性）　～親もサラリーマン・高学歴
  結婚すると生活水準が下がる　　女性の晩婚・非婚化→男性の晩婚化→少子化
- 都市生活～自然からの絶縁　　自然：予測不可能／人工的環境：予測（管理）可能
  清潔（無臭）、明るいこと、横ならびへの偏愛　　異質なものの排除
- 「家業」の解体→「学校」の絶対化→いじめ・不登校（組織への同化が抑圧に転化）
  個性的・独自であること・内面を明らかにすることへの恐れ
- 公共性（国家・社会）への疑い　　負担の増大・年金の世代間不公平

□2□　日本経済はなぜ、行き詰まっているのか

１）戦後日本の、繁栄の条件
- 平和：冷戦によって戦争は不可能に　アメリカの核の傘のもと、繁栄のｼｮｰｳｨﾝﾄﾞｳに
- 資源：原材料・エネルギー・食糧・技術　　いずれもアメリカが入手を保証
- 市場：アメリカ、および世界が市場を開放（貿易赤字を容認）

２）90年代以降、繁栄の条件が失われた
- 80年代に生産力過剰（→消費社会化）　　投資（Ｒ＆Ｄ、新産業への転換）が不十分
  高度成長時代の組織・システムが温存された　　グローバル化→競争へ対応の遅れ
- 人材の涸渇　　協調性重視（創造性軽視）、ｼﾞｪﾈﾗﾘｽﾄ 重視（専門家軽視）の組織文化
  リーダーが育たない（組織を離れられない、専門知識がない、人格が独立でない）

□3□　日本の教育の、どこがどう病んでいるのか

１）日本の教育システムには、教師も、生徒も、親も不満　　それなのに、変わらない

２）若者は、日本の教育を受けると元気がなくなる
- 知識への興味を失い、人生を生きる積極性を失い、他人任せで責任が欠如している
- 無規範（ｱﾉﾐｰ）が深く進行し、社会性・公共性を理解しない世代が再生産されている

３）教師集団は、教育力の源泉である「連帯」を見失っている　　管理の仕方が間違い

□4□　教育を変えれば、若者が変わる

１）小学校・中学校（人間基礎教育）の改革　　親の選択・責任／校長の説明責任
- 学区制の廃止～親の学校選択権　　・校長に権限を集中　人事・予算・教育
- 学校理事会　　親と地域の代表が、校長を監督

２）高校（社会の基本教育）の改革　　生徒の自己選択・学習責任　　高検の導入
- 高校入試の廃止（→書類審査）　・高検の導入（ＳＡＴ型）　高卒資格に替える

３）大学（専門教育・学術研究）の改革
- 大学入試の廃止（学生定員の廃止）　そのかわり、卒業は厳格に
- 学費は受益者（学生）負担が原則　　・奨学ローン、奨学金（成績に応じ傾斜配分）

□5□　教育を変えれば、日本が変わる

１）政治～人びとの価値＆意思決定の集積　人びとの独立に意思決定がその前提
- 個人主義教育、個性重視教育は、民主主義の政治文化の基礎　　←キリスト教
  キリスト教の文化伝統のない日本は、教育を通じてこの文化を培う必要がある

２）教育改革のやり方は正しいか
- 中央教育審議会　　審議会は、責任なし（選挙なし～正統性なし）　官僚主導
- 教育改革を、文部省・中教審の体制から、親・生徒（市民）主導に奪い返すことが、
  教育改革の出発点でなければならない　　教育改革～政治改革

３）教育改革は、他の制度改革の前提である
- 教育は、世代の再生産を通じて、社会構造（制度）を再生産する

⇒教育改革なしに、制度改革なし（特に日本では、制度それ自体が自己目的となる）

４）教育は、「日本」というイデオロギーの根幹をなす
- 日本社会には、宗教なし　　近代の制度を移入する際、教育によって国民を洗脳

⇒日本の集団主義的文化は、実は近代に急速に適応したための代償である
- 近代化を完成させるためには、教育を個人に合わせ人生に合わせて、作り直すべき

⇒文化を大事に、人間を大事に、知識を大事に、正義を大事に、真理を大事に

＊以上の教育改革は、７月に社会経済生産性本部から「最終報告」として発表の予定。

福井新聞政経懇話会　　　少年犯罪と教育　　　1999.4.27
於：福井新聞社ﾎｰﾙ　　〜選択・責任・連帯の教育改革へ〜　　橋爪大三郎
（東京工業大）

□0□　講師自己紹介　　http://www.valdes.titech.ac.jp/ hashizm/

はしづめ　だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。1989年より東京工業大学助教授（社会学）。1996年4月より、大学院社会理工学研究科価値システム専攻教授。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『橋爪大三郎コレクション（全３巻）』（以上、勁草書房）、『はじめての構造主義』『社会がわかる本』（以上、講談社）、『崔健』『性愛論』（以上、岩波書店）、『冒険としての社会科学』（毎日新聞社）、『自分を活かす思想／社会を生きる思想』（共著、径書房）、『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）、『小室直樹の学問と思想』（共著、弓立社）、『大問題！』（幻冬舎）、『橋爪大三郎の社会学講義』『橋爪大三郎の社会学講義２』（夏目書房）、『科学技術は地球を救えるか』『研究開国』（共著、富士通経営研修所）、『オウムと近代国家』（共著、南風社）、『新生日本』（共著、学習研究社）、『正義・戦争・国家論』（共著、径書房）、『選択・責任・連帯の教育改革』（共著・岩波ﾌﾞｯｸﾚｯﾄ）、『ポスト戦後の正統論』（勁草書房・近刊）、『こんなに困った北朝鮮』（メタローグ・近刊）

□1□　戦後日本の、若者はどう変わってきたか

1）若者は、アンチテーゼ（前の世代に対する断絶の強調）によって、自己主張する
・アプレ・ゲール　〜民主主義・マルクス主義・戦後的価値観の称揚
・全学連世代（太陽族→みゆき族→原宿族）　〜正統（共産党）マルクス主義に反対
・全共闘世代（団塊の世代）　〜戦後の体制的なるものに対する懐疑
・しらけ世代（紛無世代）　〜公共的なものから私的なものへの撤退
・新人類　〜消費・情報・ハイテク・ブランドの輝き・限界差異の追求
・ファミコン世代（団塊ジュニア）　〜ヴァーチャル感覚・ＰＢ・メイル・携帯電話

2）現代の若者意識が、過去と違っている点
・「子どもが親を越えられない」現象（特に男性）　〜親もサラリーマン・高学歴
　結婚すると生活水準が下がる　　女性の晩婚・非婚化→男性の晩婚化→少子化
・都市生活〜自然からの絶縁　　自然：予測不可能／人工的環境：予測（管理）可能
　清潔（無臭）、明るいこと、横ならびへの偏愛　　異質なものの排除
・「家業」の解体→「学校」の絶対化→いじめ・不登校（組織への同化が抑圧に転化）
　個性的・独自であること・内面を明らかにすることへの恐れ
・公共性（国家・社会）への疑い　　負担の増大・年金の世代間不公平　　閉塞感

3）“キレル”“ムカツク”少年たちの犯罪が急増
・神戸小学生殺傷事件〜少年Ａ（酒鬼薔薇聖斗）は異常快楽殺人者、だが人びとが共鳴
・黒磯北中女教師刺殺事件〜ナイフ少年は普通の生徒だが女教師をメッタ突きに
・暴力への衝動、欲望を抑えられない感情の暴発は、学校拘禁症候群とみられる

□2□　教育が変われば、日本が変わる

1）無連帯（アノミー）が、学校をめぐる問題の根本である　　無連帯→規範の解体
　Cf.　小室直樹 1979 『危機の構造』ダイヤモンド社　→中公文庫
・教師の無連帯　　校長vs日教組　　教室は治外法権　　超過勤務・３Ｋ職場
　教師の社会的地位・威信は急降下→校則（統制のための恣意的な規則）が膨張
・生徒の無連帯　　成績は個人ごと（個人救済）／学校は擬似共同体　　〜矛盾
　いじめ：擬似共同体が個人を攻撃する“祝祭”　　個性より共同体帰属が優先
・地域社会の無連帯　　家庭が学校の価値に従属（勉強しなさい、先生躾けて下さい）
　子供文化（ガキ大将）の消滅　　近隣集団の解体　　家族〜○私的利害×公共性

2）教育改革：連帯の回復→少年少女たちが大人に成長するための、健全な環境を
・生徒と教師との不幸な出会い　⇨　★学区制廃止、★校長に人事権・経営権を！
　校長が教師を任用→校長と教師は運命共同体→教育効果を追求するプロ集団に変身
・★高校入試を廃止（中高一貫化）して、★高校学力検定試験（高検）を導入すべき！
　内申書廃止（教師は生徒の内面に踏み込んではならない）
　成績の外部規準を導入すれば、生徒と教師は連帯できる
・相対評価をやめ、絶対評価に
・学力別クラス編成　個人ｶﾘｷｭﾗﾑ　　生徒が学校に合わせる→学校が生徒に合わせる

3）家庭教育の再建：自己責任原則を確立しよう
・「自分で選択したことには、責任を負う」ことを、教育（人格形成）の基本に
・★大学学費は、親が払わず本人が負担する　奨学金（教育ローン）を学生本人が返済
　学生が大学の経費を全額支払うことにすれば、★大学入試は全廃できる
　→親子両世代に、数兆円の可処分所得が生まれる：赤字国債より有益な将来への投資

4）社会に貢献し、公共のために働くことの誇りを育てよう
・自由と規則は両立する（規則〜義務なしに、自由〜権利はない）ことを学ぶ
　例）あるｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙｽｸｰﾙ の校則は、３つしかない
　　1）Respect the rights and property of others.　×学校の規則を守ります
　　2）Never keep someone else from learning.　×私は勉強します
　　3）Never say or write anything to hurt someone.×思いやりの心を持ちます
・文化の再発見　　高度成長とバブル時代は終わり　　少年少女は大人世界の鏡
　自分を語る言葉を持つこと　→他との比較でない、絶対の規準をもつこと
　言葉によって自分をコントロールし、現実社会を構築すること

東京私立中学高等学校協会・初任者研修会
於：アルカディア市ヶ谷

私の社会学講義
──教育と社会を考える──

1999.5.7
橋爪大三郎
（東京工業大）

□0□　講師自己紹介

はしづめ　だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。1989年より東京工業大学助教授（社会学）。1996年4月より、大学院社会理工学研究科価値システム専攻教授。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『橋爪大三郎コレクション（全3巻）』（以上、勁草書房）、『はじめての構造主義』『社会がわかる本』（以上、講談社）、『崔健』『性愛論』（以上、岩波書店）、『冒険としての社会科学』（毎日新聞社）、『自分を活かす思想／社会を生きる思想』（共著、径書房）、『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）、『小室直樹の学問と思想』（共著、弓立社）、『大問題！』（幻冬舎）、『橋爪大三郎の社会学講義』『橋爪大三郎の社会学講義2』（夏目書房）、『科学技術は地球を救えるか』『研究開国』（共著、富士通経営研修所）、『オウムと近代国家』（共著、南風社）、『新生日本』（共著、学習研究社）、『正義・戦争・国家論』（共著、径書房）、『選択・責任・連帯の教育改革』（共著・岩波ブックレット）、『ポスト戦後の正統論』（勁草書房・近刊）、『こんなに困った北朝鮮』（メタローグ・近刊）

□1□　いまの若者は、どこがどう変わってきたのか

1）現代の若者意識が、過去と違っている点
・「子どもが親を越えられない」現象（特に男性）　～親もサラリーマン・高学歴
　結婚すると生活水準が下がる　女性の晩婚・非婚化→男性の晩婚化→少子化
・都市生活～自然からの絶縁　自然：予測不可能／人工的環境：予測（管理）可能
　清潔（無臭）、明るいこと、横ならびへの偏愛　異質なものの排除
・「家業」の解体→「学校」の絶対化→いじめ・不登校（組織への同化が抑圧に転化）
　個性的・独自であること・内面を明らかにすることへの恐れ
・公共性（国家・社会）への疑い　負担の増大・年金の世代間不公平　閉塞感

2）“キレル”“ムカツク”少年たちの犯罪が急増
・神戸小学生殺傷事件～少年A（酒鬼薔薇聖斗）は異常快楽殺人者、だが人びとが共鳴
・黒磯北中女教師刺殺事件～ナイフ少年は普通の生徒だが女教師をメッタ突きに
・暴力への衝動、欲望を抑えられない感情の暴発は、学校拘禁症候群とみられる

□2□　教育の、どこがどう病んでいるのか

1）日本の教育システムには、誰も満足していない　→それなのに、変わらない
＊親は不満　・学力がつかない　・競争が厳しい　・教師が頼りない　・いじめが多い
　⇨そこで、塾や予備校に入れる、私学人気　学校教育に対する不信
＊教師も不満　・親は自分勝手　・生徒は暴れる　・待遇が悪い　・職場の人間関係
＊生徒も不満　・授業が分からない、つまらない　・教師が勝手　・受験がきつい
＊社会も不満　・効率が悪い　・現実社会に役立たない　・研究のレベルが低い

2）若者は、日本の教育を受けると元気がなくなる
＊大学に入ってから、「勉強が嫌い」「自分は何をしたらいい」と悩む若者が多い
　⇨とにかく大学に入れ、大学に入れば何とかなる、とものを考えずに来た若者が多い
＊知識への興味を失い、人生を生きる積極性を失い、他人任せで責任が欠如している
＊無規範（アノミー）が深く進行し、社会性・公共性を理解しない世代が再生産されている

3）教師集団は、教育力の源泉である「連帯」を見失っている
＊教育委員会の任用システム　校長以下、烏合の衆～責任を取らない官僚の集まり
＊何をいつ、どのように教えるか、現場の権限なし　教育者としての人格を喪失
＊クラス一斉授業の害悪（落ちこぼれ／学力低下）　生徒の個性を認めるのは無理
＊手を抜いても待遇は同じ　→だらけ教師が教師集団全体のムードを支配してしまう

□3□　教育を変えれば、人間が変わる

1）小学校・中学校（人間基礎教育）を変える　親の選択・責任／校長の説明責任
＊学区制の廃止～親と生徒の、学校選択権　学校間競争、教師集団の説明責任
＊校長に権限を集中　人事権、予算権、教務権　教師集団に対するリーダーシップ
＊学校理事会　親と地域の代表が、校長を監督する　教育効果を測る外部基準
　学校理事会は、地域社会によって選挙される（認定投票）
＊校長・教師は、プロとして自立する　校長と契約ベースで、学校を渡り歩く

2）高校（社会の基本教育）を変える　生徒の自己選択・学習責任　高検の導入
＊高校入試の廃止　書類審査で十分　学校は個人ごとの教育メニューを提供
＊高検の導入（ＳＡＴ型）　高校卒業資格を、高検に改める　基本教科の絶対評価
⇨生徒の目標ができる～高校の蘇生　それ以外の多様なコースを開設～高校の自由
＊大学&社会と直結した生徒教育　社会性・公共性・倫理性を身につける

3）大学（専門教育・学術研究）を変える　自由・競争・公開の原則
＊大学入試の廃止　キックアウト制～学生定員の廃止　大学が卒業基準を設定
＊学費の学生自己負担を　親の負担軽減（９兆円）　世代間、階層間の公平
⇨学生のコスト意識を目覚めさせる　勉強に対する自覚・意欲が最優先
＊奨学金　銀行が市中金利により、学生個人に学費・学資を貸し出す　国の保証
＊学内奨学金（傾斜配分）　成績に応じて、学費を還元　混雑現象が起きても平気
＊単位互換～学生の移動の自由　教員の任期制・公募制　研究開国

□4□　教育を変えれば、社会が変わる

1）教育改革は、他の制度改革の前提である
＊教育は、世代の再生産を通じて、社会構造（制度）を再生産する
⇨教育改革なしに、制度改革なし（特に日本では、制度それ自体が自己目的となる）
＊教育改革は、制度改革を継続する主体を生み出す　改革の原動力

2）教育は、「日本」というイデオロギーの根幹をなす
＊日本社会には、宗教なし　近代の制度を移入する際、教育によって国民を洗脳
⇨日本の集団主義的文化は、実は近代に急速に適応したための代償である
＊近代化を完成させるためには、教育を個人に合わせ人生に合わせて、作り直すべき
⇨文化を大事に、人間を大事に、知識を大事に、正義を大事に、真理を大事に
＊一人ひとりが充実して生きる社会こそ、日本の２１世紀の目的である

東京都教育委員会　　選択・責任・連帯の　　1999.5.12
[redacted]　　教育改革　　橋爪大三郎
於：東京都庁第一本庁舎　　※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※　　（東京工業大）

□1□　教育の、どこがどう病んでいるのか

1）日本の教育システムには、誰も満足していない　→それなのに、変わらない
　＊親は不満　教師も不満　生徒も不満　社会も不満
2）若者は、日本の教育を受けると元気がなくなる　　無規範（ｱﾉﾐｰ）が深く進行
3）教師集団は、教育力の源泉である「連帯」を見失っている

□2□　教育を変えれば、人間が変わる

1）小学校・中学校（人間基礎教育）を変える　　親の選択・責任／校長の説明責任
　＊学区制の廃止～学校選択権　　＊校長に権限を集中　　人事権、予算権、教務権
　＊学校理事会　　親と地域の代表が、校長を監督する　　教育効果を測る外部基準
2）高校（社会の基本教育）を変える　　生徒の自己選択・学習責任　　高検の導入
　＊高校入試の廃止　　＊高検の導入（ＳＡＴ型）　　高校卒業資格を、高検に改める
3）大学（専門教育・学術研究）を変える　　＊大学入試の廃止～学生定員の廃止
　＊学費の学生自己負担～奨学ローン　親の負担軽減（９兆円）　世代間、階層間の公平
　＊学内奨学金（傾斜配分）　成績に応じ学費を還元　　＊研究開国

□3□　教育を変えれば、日本が変わる

1）政治～人びとの価値＆意思決定の集積
　＊選択（自己決定）の前提は、明確な価値観・正確な情報　　公共性・知る権利
　＊教育改革を、文部省・中教審の体制から、親・生徒（市民）主導に奪い返す
2）教育改革は、他の制度改革の前提　～教育は世代を通じ、社会構造（制度）を再生産
3）教育は、「日本」というイデオロギーの根幹をなす
　＊日本社会には、宗教なし　　近代の制度を移入する際、教育によって国民を洗脳
　⇨日本の集団主義的文化は、実は近代に急速に適応したための代償である
　＊近代化を完成させるためには、教育を個人に合わせ人生に合わせて、作り直すべき

参考）堤清二・橋爪大三郎 1999 『選択・責任・連帯の教育改革』岩波ﾌﾞｯｸﾚｯﾄ 471

政策科学研究所　　選択・責任・連帯の　　1999.7.9
第17回永井道雄部会　　教育改革　　橋爪大三郎
国際文化会館樺山ﾙｰﾑ　　（東京工業大）

□0□　講師自己紹介

はしづめ　だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。1989年より東京工業大学助教授（社会学）。1996年4月より、大学院社会理工学研究科価値システム専攻教授。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『橋爪大三郎コレクション（全３巻）』（以上、勁草書房）、『はじめての構造主義』『社会がわかる本』（以上、講談社）、『崔健』『性愛論』（以上、岩波書店）、『冒険としての社会科学』（毎日新聞社）、『自分を活かす思想／社会を生きる思想』（共著、径書房）、『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）、『小室直樹の学問と思想』（共著、弓立社）、『大問題！』（幻冬舎）、『橋爪大三郎の社会学講義』『橋爪大三郎の社会学講義２』（夏目書房）、『科学技術は地球を救えるか』『研究開国』（共著、富士通経営研修所）、『オウムと近代国家』（共著、南風社）、『新生日本』（共著、学習研究社）、『正義・戦争・国家論』（共著、径書房）、『選択・責任・連帯の教育改革』（共著・岩波ﾌﾞｯｸﾚｯﾄ）ほか

□1□　教育の、どこがどう病んでいるのか

１）日本の教育システムには、誰も満足していない　→それなのに、変わらない

＊親は不満　・学力がつかない　・競争が厳しい　・教師が頼りない　・いじめが多い

⇨そこで、塾や予備校に入れる、私学人気　　学校教育に対する不信

＊教師も不満　・親は自分勝手　・生徒は暴れる　・待遇が悪い　・職場の人間関係

＊生徒も不満　・授業が分からない、つまらない　・教師が勝手　・受験がきつい

＊社会も不満　・効率が悪い　・現実社会に役立たない　・研究のレベルが低い

２）若者は、日本の教育を受けると元気がなくなる

＊大学に入ってから、「勉強か嫌い」「自分は何をしたらいい」と悩む若者が多い

⇨とにかく大学に入れ、大学に入れば何とかなる、とものを考えずに来た若者が多い

＊知識への興味を失い、人生を生きる積極性を失い、他人任せで責任が欠如している

＊無規範（ｱﾉﾐｰ）が深く進行し、社会性・公共性を理解しない世代が再生産されている

３）教師集団は、教育力の源泉である「連帯」を見失っている

＊教育委員会の任用システム　　校長以下、烏合の衆〜責任を取らない官僚の集まり

＊何をいつ、どのように教えるか、現場の権限なし　　教育者としての人格を喪失

＊クラス一斉授業の害悪（落ちこぼれ／学力低下）　生徒の個性を認めるのは無理

＊手を抜いても待遇は同じ　→だらけ教師が教師集団全体のムードを支配してしまう

□2□　選択・責任・連帯の教育改革

１）小学校・中学校（人間基礎教育）を変える　　親の選択・責任／校長の説明責任

＊学区制の廃止〜親と生徒の、学校選択権　　学校間競争、教師集団の説明責任

＊校長に権限を集中　　人事権、予算権、教務権　　教師集団に対するリーダーシップ

＊学校理事会　　親と地域の代表が、校長を監督する　　教育効果を測る外部基準

学校理事会は、地域社会によって選挙される（認定投票）

＊校長・教師は、プロとして自立する　　校長と契約ベースで、学校を渡り歩く

２）高校（社会の基本教育）を変える　　生徒の自己選択・学習責任　　高検の導入

＊高校入試の廃止　　書類審査で十分　　学校は個人ごとの教育メニューを提供

＊高検の導入（ＳＡＴ型）　　高校卒業資格を、高検に改める　　基本教科の絶対評価

⇨生徒の目標ができる〜高校の蘇生　　それ以外の多様なコースを開設〜高校の自由

＊大学&社会と直結した生徒教育　　社会性・公共性・倫理性を身につける

３）大学（専門教育・学術研究）を変える　　自由・競争・公開の原則

＊大学入試の廃止　　キックアウト制〜学生定員の廃止　　大学が卒業基準を設定

＊学費の学生自己負担を　　親の負担軽減（９兆円）　　世代間、階層間の公平

⇨学生のコスト意識を目覚めさせる　　勉強に対する自覚・意欲が最優先

＊奨学金　　銀行が市中金利により、学生個人に学費・学資を貸し出す　　国の保証

＊学内奨学金（傾斜配分）　　成績に応じて、学費を還元　　混雑現象が起きても平気

＊単位互換〜学生の移動の自由　　教員の任期制・公募制　　研究開国

栃木県産業協議会　　　２１世紀へ向けて　　　1999.7.27
７月全体例会　　　**価値観の崩壊と創造**　　　橋爪大三郎
宇都宮ｸﾞﾗﾝﾄﾞﾎﾃﾙ　　　　　　（東京工業大）

□0□　講師自己紹介

はしづめ　だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。1989年より東京工業大学助教授（社会学）。1996年４月より、大学院社会理工学研究科価値システム専攻教授。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『橋爪大三郎コレクション（全３巻）』（以上、勁草書房）、『はじめての構造主義』『社会がわかる本』（以上、講談社）、『崔健』『性愛論』（以上、岩波書店）、『冒険としての社会科学』（毎日新聞社）、『自分を活かす思想／社会を生きる思想』（共著、径書房）、『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）、『小室直樹の学問と思想』（共著、弓立社）、『大問題！』（幻冬舎）、『橋爪大三郎の社会学講義』『橋爪大三郎の社会学講義２』（夏目書房）、『科学技術は地球を救えるか』『研究開国』（共著、富士通経営研修所）、『オウムと近代国家』（共著、南風社）、『新生日本』（共著、学習研究社）、『正義・戦争・国家論』（共著、径書房）、『選択・責任・連帯の教育改革』（共著・岩波ﾌﾞｯｸﾚｯﾄ）ほか

□1□　明治国家の呪い

１）明治維新は、「革命」ではなくて「復古」だった　　Meiji Restration
・朱子学の正統論＋失徳の皇帝論＋忠孝一如（君主絶対化）　⇨水戸学　⇨尊皇攘夷
・武力の動員、制度の改廃、新政権の樹立は、すべて天皇の名のもとに行なわれた
２）国家は「聖」なる機関とされ、公的性格を独占し、人びとの献身の対象となった
・天皇の統治権は、伝統的→超法規的　「軍人勅諭」「教育勅語」
・国家神道は宗教でない（政府の見解）→国民に強制できる→政教一致（Cf.政教分離）
・国家の行動に対し、国民が行政訴訟を起こすことはできなかった　国／民間
３）天皇は「国家機関」として、憲法体制のなかに組み込まれた
・統帥権の独立　……軍令事項は、内閣を経ずに、天皇が直轄する（参謀本部、軍令部）
　統帥権を誰が輔弼するか、憲法上あいまい　奉勅命令：統帥部起草→上奏→勅命
・内閣の首班は、天皇が指名　元老もしくは内大臣が助言したが、根拠があいまい

□2□　戦後日本の混迷

１）敗戦による、価値観の崩壊
・天皇〜国家が、国民の価値観・道徳の根幹だった　⇨国家が、侵略戦争を起こした
・公共的なものへの不信、私的欲望の肯定　→企業共同体の絶対化、ｴｺﾉﾐｯｸ・ｱﾆﾏﾙ
２）戦後民主主義・平和憲法は、武力を否定　⇨その憲法は、アメリカに強制された
・ダブル・バインド→自己欺瞞の装置（ホンネ／タテマエ）〜加藤典洋『日本の無思想』
・保守（親アメリカ）／革新（親ソ）→新左翼（反帝反スタ）→ポストモダン（ﾌﾗﾝｽ）
　→新保守（反動ナショナリズム）　Cf.教科書論争、日の丸・君が代論争
３）価値観の崩壊・無規範の蔓延
・学校で……受験競争の激化→暴力→不登校→無気力、学力低下、学級崩壊
・家庭で……暴力、引きこもり、家庭内離婚、不倫、援助交際（専業主婦の価値低下）

□3□　新しい価値観を創造するために

１）国家に対する敬意をどう考えるか（国旗・国歌の問題）　〜毎日新聞 99.7.14
・国家・国民は目に見えない→旗で象徴→旗に対して、国家・国民と同様の敬意を表す
・革新〜①日の丸・君が代は大日本帝国の象徴、歴史に汚れた、②国旗・国歌に不可
　保守〜③日の丸・君が代は国民のあいだに慣習として定着、④法定すればもっと定着
・①、③は事実だから認める。だが、②、④と考える必要なし。教育の判断は現場で。
２）地域社会と個人の自立をどうはかるか　〜日本経済新聞・経済教室 99.7
・三割自治・補助金事業　→財政自立（地方消費税）　→中央省庁の権限大幅削減
・国会の機能強化（行政官僚の半分を国会スタッフに）　立法をめぐる対話を国会で
・有権者の主体性　→選挙区で政党組織（＋公職選挙法改正）　選択の保証（次点歳費）
３）教育権を、親の手に　〜社会経済生産性本部『選択・責任・連帯の教育改革』99.7
・学区制、入試、学習指導要領、教育委員会、大学学生定員の廃止　中央統制の廃止
・詳細は以下でのべる　21世紀を拓く、自立した個人を育てる長期戦略

□4□　選択・責任・連帯の教育改革

１）小学校・中学校（人間基礎教育）を変える　親の選択・責任／校長の説明責任
・学区制の廃止〜親と生徒の、学校選択権　学校間競争、教師集団の説明責任
・校長に権限を集中　人事権、予算権、教務権　教師集団に対するリーダーシップ
・学校理事会　親と地域の代表が、校長を監督する　教育効果を測る外部基準
　学校理事会は、地域社会によって選挙される（認定投票）
・校長・教師は、プロとして自立する　校長と契約ベースで、学校を渡り歩く
・教員派遣機構　移行措置として、教員は派遣機構に移り、基本的待遇を保証
２）高校（社会の基本教育）を変える　生徒の自己選択・学習責任　高検の導入
・高校入試の廃止　書類審査で十分　学校は個人ごとの教育メニューを提供
・高検の導入（ＳＡＴ型）　高校卒業資格を、高検に改める　基本教科の絶対評価
⇨生徒の目標ができる〜高校の蘇生　それ以外の多様なコースを開設〜高校の自由
・大学＆社会と直結した生徒教育　社会性・公共性・倫理性を身につける
３）大学（専門教育・学術研究）を変える　自由・競争・公開の原則
・大学入試の廃止　キックアウト制〜学生定員の廃止　大学が卒業基準を設定
・学費の学生自己負担を　親の負担軽減（９兆円）　世代間、階層間の公平
⇨学生のコスト意識を目覚めさせる　勉強に対する自覚・意欲が最優先
・奨学ローン　銀行が市中金利により、学生個人に学資を貸し出す　国の保証
・学内奨学金（傾斜配分）　成績に応じて、学費を還元　混雑現象が起きても平気
＊単位互換〜学生の移動の自由　教員の任期制・公募制　研究開国

札幌市教育委員会
学校経営全体研修会
札幌サンプラザホール

選択・責任・連帯の 教育改革

1999.7.29
橋爪大三郎
（東京工業大）

□0□　講師自己紹介

はしづめ　だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。1989年より東京工業大学助教授（社会学）。1996年4月より、大学院社会理工学研究科価値システム専攻教授。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『橋爪大三郎コレクション（全3巻）』（以上、勁草書房）、『はじめての構造主義』『社会がわかる本』（以上、講談社）、『崔健』『性愛論』（以上、岩波書店）、『冒険としての社会科学』（毎日新聞社）、『自分を活かす思想／社会を生きる思想』（共著、径書房）、『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）、『小室直樹の学問と思想』（共著、弓立社）、『大問題！』（幻冬舎）、『橋爪大三郎の社会学講義』『橋爪大三郎の社会学講義２』（夏目書房）、『科学技術は地球を救えるか』『研究開国』（共著、富士通経営研修所）、『オウムと近代国家』（共著、南風社）、『新生日本』（共著、学習研究社）、『正義・戦争・国家論』（共著、径書房）、『選択・責任・連帯の教育改革』（共著・岩波ﾌﾞｯｸﾚｯﾄ）ほか

□1□　社会経済生産性本部とは？

１）社会経済生産性本部　……日本生産性本部が、社会経済国民会議と合体して、数年前にスタート。経済界のほか、労組代表、学識経験者などを加えたＮＧＯ組織。
２）社会政策特別委員会　……堤清二（セゾン文化財団）が委員長、佐和隆光（京大経済研究所教授）が主査。橋爪は、一昨年に参加して、専門委員長をつとめる。
３）「選択・責任・連帯の教育改革」……98年７月に中間報告を発表。岩波ﾌﾞｯｸﾚｯﾄにその内容を要約。99年７月に最終報告を発表。勁草書房から、来年春に出版の予定。
＊報告の骨子　……「選択」＝国民の主体性、「責任」＝政府に頼るのをやめる、「連帯」＝プロとしての誇りと信頼関係、をベースにして、学校教育を再構築しよう。
http://www.valdes.titechl.ac.jp/～hashizm/にて、報告書の全文を公開予定。

□2□　教育の、どこがどう病んでいるのか

１）日本の教育システムには、誰も満足していない　→それなのに、変わらない
＊親は不満　・学力がつかない　・競争が厳しい　・教師が頼りない　・いじめが多い
⇨そこで、塾や予備校に入れる、私学人気　　学校教育に対する不信
＊教師も不満　・親は自分勝手　・生徒は暴れる　・待遇が悪い　・職場の人間関係
＊生徒も不満　・授業が分からない、つまらない　・教師が勝手　・受験がきつい
＊社会も不満　・効率が悪い　・現実社会に役立たない　・研究のレベルが低い
２）若者は、日本の教育を受けると元気がなくなる
＊大学に入ってから、「勉強か嫌い」「自分は何をしたらいい」と悩む若者が多い
⇨とにかく大学に入れ、大学に入れば何とかなる、とものを考えずに過ごしてきた
＊知識への興味を失い、人生を生きる積極性を失い、他人任せで責任が欠如している
＊無規範（ｱﾉﾐｰ）が深く進行し、社会性・公共性を理解しない世代が再生産されている
３）教師集団は、教育力の源泉である「連帯」を見失っている
＊教育委員会の任用システム　校長以下、烏合の衆～責任を取らない「官僚」の集まり
＊何をいつ、どのように教えるか、現場の権限なし　　教育者としての人格を喪失
＊クラス一斉授業の害悪（落ちこぼれ／学力低下）　生徒の個性を育てるのは無理
＊手を抜いても待遇は同じ　→だらけ教師が教師集団全体のムードを支配してしまう

□3□　小・中学校の改革

１）学区制を廃止する　　⇦親（と子ども）の学校選択権（⇦親の教育権）
＊公立学校のあいだに、自然な学校間の競争が生まれる　　学校はひとつの経営体に
＊学校ごとの個性や特色、父母への説明責任（ならびに結果責任）が求められる
２）校長に、学校の経営権を与える
＊人事権　……教頭、教員、事務員を雇用　　待遇も決める　　リーダーシップを発揮
＊予算権　……予算の使途を決める　人件費と事務費のバランス、学校の特色を明確に
＊カリキュラム権　……学習指導要領を廃止　クラス編成や進度を決める　結果で評価
＊校長の人材を養成する　教員と別の専門職能　大学に専門課程　副校長（見習い）制
３）学校理事会が、学校経営を監督
＊学校理事会　　親と地域の代表が、校長を監督　　地域社会による選挙（認定投票）
＊校長の公募→公聴会→校長の任命→校長の報告を受ける→外部評価も参考に→再任？
＊教育委員会の、整理再編　・学校理事会を支援　・教員派遣機構～教員の異動の自由
４）「義務教育」の再定義　　　相対評価→絶対評価　　個々人のニーズに応じた教育
＊基礎教育　：人間が人間らしく生きていく、市民生活の基礎を築く教育　～小中学校
＊基本教育　：日本社会の産業・経済・制度・科学技術・文化の基礎学力を与える教育 ～高等学校

□4□　高等学校の改革　　生徒の自己選択・学習責任

１）高校入試の廃止　　⇨書類による入学者決定　　×偏差値輪切り、無気力・不適応
＊学校は、個人ごとの教育メニュー、多様なコースを用意
２）高等学校学力検定試験（高検）を採用　～高校教育を評価する外部規準　　問題公表
＊高校卒業資格は、高検に一本化　　基本教科の絶対評価、高１程度の簡単な試験
ＳＡＴ型　絶対評価（資格試験）　年６回程度　　外国人学校、留学生に開放
＊高検が高校のアイデンティティになる　　小中学校の補習や多様な発展教育も自由に

□5□　大学の改革

１）大学入試の廃止　⇦学生定員の廃止　　＋キックアウト制（単位の完全互換）
＊高検は、大学出願の基礎資格　　加えて、他の資格（TOEFL など）を課してもよい
卒業基準は大学が決定　　卒業基準、進級基準は事前公表　　→混雑現象の予防
＊志望者は、収容できる限り入学させる　ただし、コストを負担　@128-180 万円／年
２）奨学ローン、奨学金の充実
＊教育の機会均等　　銀行が学資（学費＋生活費）３００万円／年を市中金利で貸与
３００万円×３００万人＝毎年９兆円の減税効果　　中高年の負担軽減、世代間公正
⇨学生のコスト意識を目覚めさせる　　勉強に対する自覚・意欲が最優先
＊大学ごとの奨学金（学費免除）　成績と連動　　優秀者は特待生→就職に有利
３）研究開国
＊教員の任期制、年俸制　　　国立大学の全教員を、大学教員派遣機構に移管する
＊国立大学を、独立行政法人or私立大学に移行　　外国人の雇用を促進　　年金一元化
＊研究資源の配分を、多元的・競争的に　　過程の管理ではなく、結果の管理を

札幌市教育委員会　学校経営全体研修会　札幌サンプラザホール

選択・責任・連帯の教育改革

1999.7.30　橋爪大三郎（東京工業大）

□0□　講師自己紹介

はしづめ　だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。1989年より東京工業大学助教授（社会学）。1996年4月より、大学院社会理工学研究科価値システム専攻教授。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『橋爪大三郎コレクション（全3巻）』（以上、勁草書房）、『はじめての構造主義』『社会がわかる本』（以上、講談社）、『崔健』『性愛論』（以上、岩波書店）、『冒険としての社会科学』（毎日新聞社）、『自分を活かす思想／社会を生きる思想』（共著、径書房）、『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）、『小室直樹の学問と思想』（共著、弓立社）、『大問題！』（幻冬舎）、『橋爪大三郎の社会学講義』『橋爪大三郎の社会学講義２』（夏目書房）、『科学技術は地球を救えるか』『研究開国』（共著、富士通経営研修所）、『オウムと近代国家』（共著、南風社）、『新生日本』（共著、学習研究社）、『正義・戦争・国家論』（共著、径書房）、『選択・責任・連帯の教育改革』（共著・岩波ﾌﾞｯｸﾚｯﾄ）ほか

□1□　社会経済生産性本部とは？

１）社会経済生産性本部　……日本生産性本部が、社会経済国民会議と合体して、数年前にスタート。経済界のほか、労組代表、学識経験者などを加えたＮＧＯ組織。

２）社会政策特別委員会　……堤清二（セゾン文化財団）が委員長、佐和隆光（京大経済研究所教授）が主査。橋爪は、一昨年に参加して、専門委員長をつとめる。

３）「選択・責任・連帯の教育改革」……98年７月に中間報告を発表。岩波ﾌﾞｯｸﾚｯﾄにその内容を要約。99年７月に最終報告を発表。勁草書房から、来年春に出版の予定。

＊報告の骨子　……「選択」＝国民の主体性、「責任」＝政府に頼るのをやめる、「連帯」＝プロとしての誇りと信頼関係、をベースにして、学校教育を再構築しよう。

http://www.valdes.titech1.ac.jp/〜hashizm/にて、報告書の全文を公開予定。

□2□　教育の、どこがどう病んでいるのか

１）日本の教育システムには、誰も満足していない　→それなのに、変わらない

＊親は不満　・学力がつかない　・競争が厳しい　・教師が頼りない　・いじめが多い

⇨そこで、塾や予備校に入れる、私学人気　学校教育に対する不信

＊教師も不満　・親は自分勝手　・生徒は暴れる　・待遇が悪い　・職場の人間関係

＊生徒も不満　・授業が分からない、つまらない　・教師が勝手　・受験がきつい

＊社会も不満　・効率が悪い　・現実社会に役立たない　・研究のレベルが低い

２）若者は、日本の教育を受けると元気がなくなる

＊大学に入ってから、「勉強か嫌い」「自分は何をしたらいい」と悩む若者が多い

⇨とにかく大学に入れ、大学に入れば何とかなる、とものを考えずに過ごしてきた

＊知識への興味を失い、人生を生きる積極性を失い、他人任せで責任が欠如している

＊無規範（ｱﾉﾐｰ）が深く進行し、社会性・公共性を理解しない世代が再生産されている

３）教師集団は、教育力の源泉である「連帯」を見失っている

＊教育委員会の任用システム　校長以下、烏合の衆〜責任を取らない「官僚」の集まり

＊何をいつ、どのように教えるか、現場の権限なし　教育者としての人格を喪失

＊クラス一斉授業の害悪（落ちこぼれ／学力低下）　生徒の個性を育てるのは無理

＊手を抜いても待遇は同じ　→だらけ教師が教師集団全体のムードを支配してしまう

□3□　小・中学校の改革

１）学区制を廃止する　⇦親（と子ども）の学校選択権（⇦親の教育権）

＊公立学校のあいだに、自然な学校間の競争が生まれる　学校はひとつの経営体に

＊学校ごとの個性や特色、父母への説明責任（ならびに結果責任）が求められる

２）校長に、学校の経営権を与える

＊人事権　……教頭、教員、事務員を雇用　待遇も決める　リーダーシップを発揮

＊予算権　……予算の使途を決める　人件費と事務費のバランス、学校の特色を明確に

＊カリキュラム権　……学習指導要領を廃止　クラス編成や進度を決める　結果で評価

＊校長の人材を養成する　教員と別の専門職能　大学に専門課程　副校長（見習い）制

３）学校理事会が、学校経営を監督

＊学校理事会　親と地域の代表が、校長を監督　地域社会による選挙（認定投票）

＊校長の公募→公聴会→校長の任命→校長の報告を受ける→外部評価も参考に→再任？

＊教育委員会の、整理再編　・学校理事会を支援　・教員派遣機構〜教員の異動の自由

４）「義務教育」の再定義　相対評価→絶対評価　個々人のニーズに応じた教育

＊基礎教育　：人間が人間らしく生きていく、市民生活の基礎を築く教育　〜小中学校

＊基本教育　：日本社会の産業・経済・制度・科学技術・文化の基礎学力を与える教育　〜高等学校

□4□　高等学校の改革　生徒の自己選択・学習責任

１）高校入試の廃止　⇨書類による入学者決定　×偏差値輪切り、無気力・不適応

＊学校は、個人ごとの教育メニュー、多様なコースを用意

２）高等学校学力検定試験（高検）を採用　〜高校教育を評価する外部規準　問題公表

＊高校卒業資格は、高検に一本化　基本教科の絶対評価、高１程度の簡単な試験

ＳＡＴ型　絶対評価（資格試験）　年６回程度　外国人学校、留学生に開放

＊高検が高校のアイデンティティになる　小中学校の補習や多様な発展教育も自由に

□5□　大学の改革

１）大学入試の廃止　⇦学生定員の廃止　＋キックアウト制（単位の完全互換）

＊高検は、大学出願の基礎資格　加えて、他の資格（TOEFL など）を課してもよい

卒業基準は大学が決定　卒業基準、進級基準は事前公表　→混雑現象の予防

＊志望者は、収容できる限り入学させる　ただし、コストを負担　@128-180 万円／年

２）奨学ローン、奨学金の充実

＊教育の機会均等　銀行が学資（学費＋生活費）３００万円／年を市中金利で貸与

３００万円×３００万人＝毎年９兆円の減税効果　中高年の負担軽減、世代間公正

⇨学生のコスト意識を目覚めさせる　勉強に対する自覚・意欲が最優先

＊大学ごとの奨学金（学費免除）　成績と連動　優秀者は特待生→就職に有利

３）研究開国

＊教員の任期制、年俸制　国立大学の全教員を、大学教員派遣機構に移管する

＊国立大学を、独立行政法人or私立大学に移行　外国人の雇用を促進　年金一元化

＊研究資源の配分を、多元的・競争的に　過程の管理ではなく、結果の管理を

産業技術短期大学　　第53回・管理者セミナー　　1999.9.2
人材開発センター　　於：NKK経営研修所

日本の明日を考える

橋爪大三郎（東工大）

□0□　講師自己紹介

はしづめ　だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。1989年より東京工業大学助教授（社会学）。1996年4月より、大学院社会理工学研究科価値システム専攻教授。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『橋爪大三郎コレクション（全３巻）』（以上、勁草書房）、『はじめての構造主義』『社会がわかる本』（以上、講談社）、『崔健』『性愛論』（以上、岩波書店）、『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）、『自分を活かす思想／社会を生きる思想』（共著、径書房）、『小室直樹の学問と思想』（共著、弓立社）、『大問題！』（幻冬舎）、『橋爪大三郎の社会学講義』『橋爪大三郎の社会学講義２』（夏目書房）、『科学技術は地球を救えるか』『研究開国』（共著、富士通経営研修所）、『近代国家とオウム』（共著、南風社）、『新生日本』（共著、学習研究社）、『正義・戦争・国家論』（共著、径書房）、『選択・責任・連帯の教育改革』（共著・岩波ブックレット）、『こんなに困った北朝鮮』（ﾒﾀﾛｰｸﾞ・近刊）ほか

□1□　超産業社会がやって来る

１）ビル・ゲイツの予言：「情報ハイウェイ」時代の到来
・計算コストの劇的低下→パソコン革命　　通信コストの劇的低下→情報通信革命
・いつ、誰とでもコミュニケーションが可能　　→組織、国家の輪郭が曖昧に
２）レスター・ブラウンの予言：環境制約（地球温暖化）の深刻化
・石油資源、天然ウランの枯渇→エネルギー価格の高騰　　石炭で代替は無理
・熱縮（温室効果によるエネルギー消費の各国別割当て）→エネルギー価格の高騰
３）マルサス→ローマ・クラブの予言：食糧不足の深刻化
・発展途上国人口の幾何学的急増と、食糧生産の伸び悩み→食糧価格の高騰
・飢餓と貧困の拡大　　局地紛争の頻発　　→世界規模での資源（土地）再分配要求
４）情報価格↓×エネルギー価格↑×食糧価格↑（資源／情報ギャップの拡大）
：世界のことはよくわかるようになるが、問題は解決できない。

□2□　20世紀は、どういう時代だったか

１）日露戦争（1904-1905）〜塹壕戦の幕開け　　203高地の攻防：近代トーチカ＋機関銃
２）第一次世界大戦（1914-1919）〜総力戦の時代　　戦線膠着→武器・兵員の投入→持久戦→前線（戦闘員）と後方（非戦闘員）の一体化→軍事・政治・経済・文化の癒着
・膠着する戦線を突破する新技術：戦車、飛行機、毒ガス（&原爆）　→第二次大戦
３）冷戦：総力戦（臨戦体制）の日常化
・冷戦は実質的に、経済戦争　　軍事費の負担が重荷となって、ソ連経済が崩壊
・日本の経済的繁栄は、アメリカの戦略的配慮による　　石油・穀物・技術・安全

□3□　ポスト冷戦とは、どのような世界か

１）世界単一市場の形成
・ブロック経済　→自由経済／計画経済　→単一自由市場　　国際分業のやり直し
・「比較優位 comparative advantage」：相対的に豊かな資源を使う産業に特化
２）民族紛争・文化摩擦の激化
・旧ソ連、旧ユーゴ、朝鮮半島、中東、アフリカ、……　　中国では一党支配が終焉？
３）アメリカの相対的地位低下　　21世紀初頭の経済順位：中国[1] ｱﾒﾘｶ[2] インド[3] 日本[4]
・中国（をはじめとする非欧米世界）の台頭　　国際社会のルールをめぐる争い
４）90年代の日本は、思考停止（＝意思決定の不能状態）に陥ってしまった
・政治の思考停止　　保革対立の終焉→ポスト自民の混迷・迷走　　政策理念の欠如
・経済の思考停止　　企業目的の喪失　　タイタニック状態　　企業共同体の崩壊
・家庭の思考停止　　熟年離婚　　家庭内離婚　　親子の断絶（過干渉／無関心）
・学校の思考停止　　学級崩壊　　いじめの日常化　　学力低下　　大学の荒廃

□4□　２１世紀、日本は復活できるか

１）日本の２１世紀戦略　　〜文化の創造的価値を重視
・「科学技術創造立国」路線　　独創性&言語バリアの突破&高品質&低価格&実用性
・国際分業のなかに活路を見出す　　日本市場→世界市場　　企業行動の世界標準化
・「人民」のための政府・制度・社会の建設を！　　無党派の時代・選択の時代
２）政治の改革　　〜意思決定力の強化
・国会の機能強化　　次点歳費制（議員を半分に）　調査・立法機能の充実
・中央省庁の再編・簡素化・規制緩和　　・地方分権　　地方政府の自立
３）企業社会の改革　　〜経済体質の強化
・戦後社会は、資本主義でなかった！　　配当が低い≒株主不在／累進課税／資産課税
⇨持株会社の復活　　ベンチャー企業育成（自由競争、直接金融）
・入り口文化、年次別管理からの脱却　　インターンシップ／年俸制／自由移動
４）教育の改革　　〜新しいタイプの日本人形成を
・
・
５）東アジア国家としての再出発
・戦後自虐史観vs自由主義史観論争の決着　　→靖国神社問題の最終的解決
・アジア諸国共存のための国際秩序を　　アメリカのプレゼンスを重視しよう

参考

社会経済生産性本部・社会政策特別委員会
最終報告書「選択・責任・連帯の教育改革――学校の機能回復をめざして」99年７月

上記の要旨は、http://www.jpc-sed.or.jp/sb3/sb301.htm　で公開しています。